

式 辞

一般社団法人 北海道林産技術普及協会
会 長 高 橋 秀 樹



長い冬が終わり、雪の間に緑の若い芽が見え始めた4月の吉日に、北海道林産技術普及協会の創立60周年記念式典を挙げて来ますことは、誠に喜ばしく光栄な事と存じます。

また日ごろお世話になっております北海道水産林務部、北海道森林管理局、北海道立総合研究機構、北海道林産試験場、北海道木材産業協同組合連合会など多くの行政・団体の皆さまと会員のご出席を戴きました。日ごろのご支援とあわせ、心より御礼申し上げます。

北海道林産技術普及協会とは、旭川にある「北海道林産試験場」の輝かしい研究成果や開発技術を全道、全国の木材産業界に広く知らせ、かつ業界からの要望や課題を試験場に伝えることを旨にした、いわゆる産・学・官を有機的に結ぶための組織であります。

北海道林産試験場の前身北海道立林業指導所が設立された昭和25（1950）年に遅れること3年、昭和28（1953）年8月に設立されました。ここから60年経過したのであります。

北海道林産試験場の設立は若き道庁マンの熱き情熱と綿密な計画によって実現しました。

小林傭秀氏とその仲間が目差すところは敗戦日本の復興でありました。戦争中の林業試験場の経験から、日本が世界経済に進出するためには優秀な技術者や技能者の養成と、産業界に直結した技術開発研究ならびにその成果の指導普及をおこなう機関を早急に設立する必要性を痛感し、実現のために当時の知事や業界に働きかけました。

そして、昭和25年旭川に待望の林業指導所が誕生したのです。

研究所の体制が整いつつその成果を指導普及するには公設機関では限界があると考え、昭和28年8月6日木材業界の有志が集まり北海道林産技術普及協会が設立されたのです。

普及協会の初代会長は林業指導所の柳下剛造氏がつとめました。2代目は民間から松岡木材の真弓正久氏が就任し、昭和41年3月末に社団法人に昇格致しました。

3代会長は小林傭秀氏、4代会長は村上彦二氏、5代目会長は高橋二郎氏、6代目会長は竹内久弥氏が務められました。ここで改めて創設者や先人会員のご苦勞に心より感謝申し上げたいと思います。

7代目会長は私、高橋秀樹が務め、昨年4月より一般社団法人に組織変更致しました。

そして本日から8代目新会長として高橋範行氏が就任いたします。

この60年の間、林産試験場の研究員と普及協会の会員の連携により、さまざまな木材が開発されてきました。普及指導のための機関誌ウッディエイジは700号を越えました。木材の開発につきましては60周年を記念して製作したDVD「森林の国に生きる」を是非ご覧ください。

また、日本木材加工技術協会はじめ日本木材学会、北海道大学、北海道水産林務部、北海道森林管理局、木材団体さまとは良い協力体制をとってまいりました。

林産試験場は平成22年からは地方独立行政法人北海道立総合研究機構の一員として、6本部と連携をはかり「より広く」「より深く」をモットーに研究課題を広げております。

今や木材の加工技術や材質研究だけでなく、キノコ開発、有効成分抽出、有害成分の検査、バイオマスなど科学、化け学、細菌の分野の研究を広げており、今後が楽しみであります。

大雪山の森林資源を背景にして、林産試験場や北方建築総合研究所などの研究機関があり、国有林、道有林の行政組織があり、大きな製紙工場を持ち、造林、造材業者がいて、製材・合板・集成材工場・プレカット工場があり、日本を代表する旭川家具があり、正に旭川には木材の産地産業が確立されております。

このすばらしい産地産業を守り発展させるためには、産・学・官の連携が不可欠であることを再認識しているところであります。

今、世界の木材原料は極めて硬直的であり、一方多種多様な木材製品が輸入され、為替変動、金融危機など国際経済は激しく変化しております。木材業界はその厳しい経済戦争を余儀なくされております。

この様な環境の中、木材業界の支援部隊として林産試験場と普及協会の役割はより重くなったと自覚し、今後も努力して参ります。

61年目から新体制になります普及協会の活動に、引き続きのご指導支援を宜しくお願いいたします。

平成25年4月19日